

患者さんの医療への参加に関するアンケート調査結果

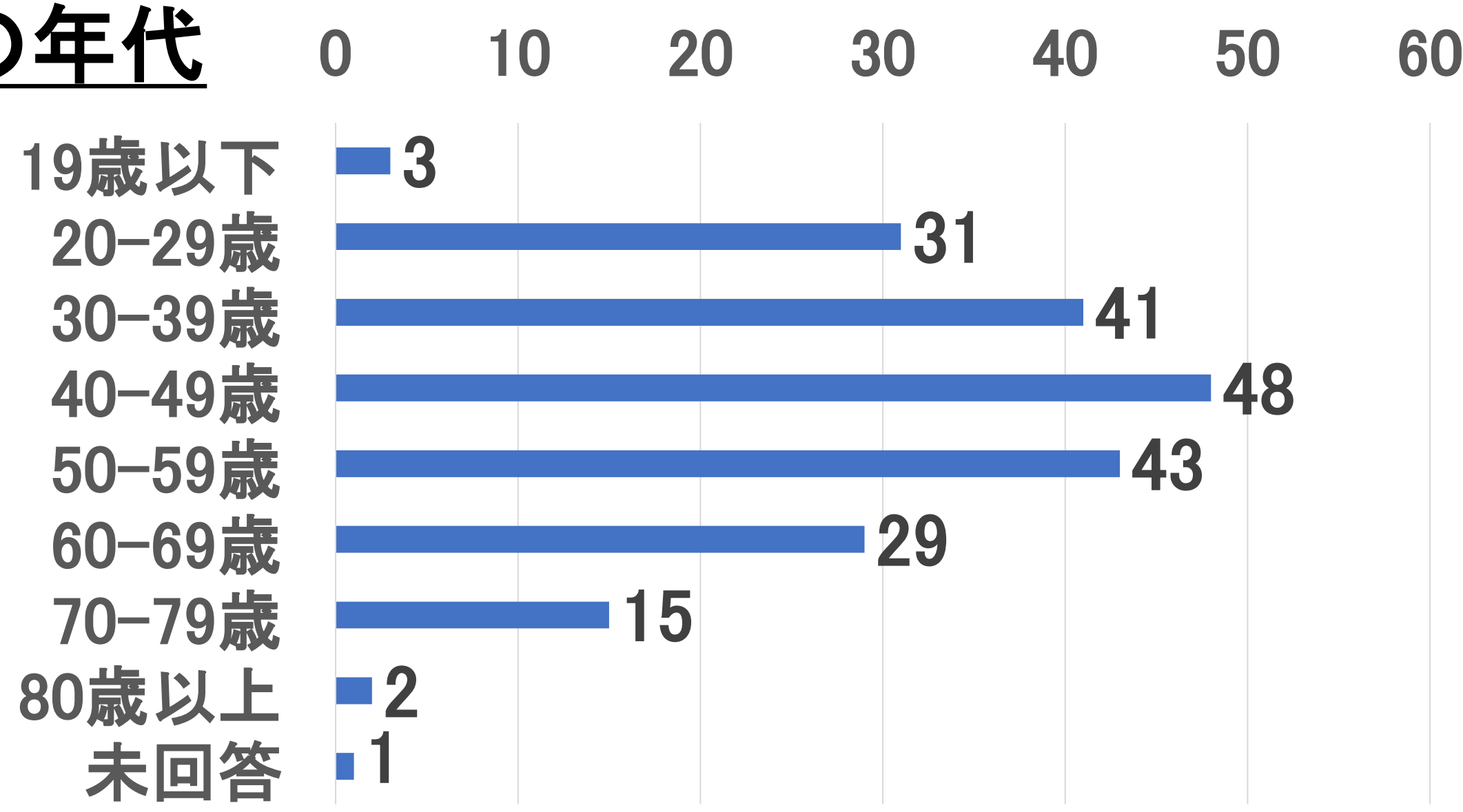
はじめに

当院では、医療の質と安全な医療は、患者さんと医療者が一緒になって、作っていくものと考えています。そのためには、患者さんと医療者の間で、お互いに考えていることや感じていることを共有し、理解を深めながら医療を進めていく「**患者参加型医療**」が大切だと考え、取り組みを進めてきました。この度、患者さんや市民の皆様にとって、ご自身が医療に参加することをどれくらい重要と考えているか、また、ご自身の医療にどれくらい参加しているかをお伺いしました。

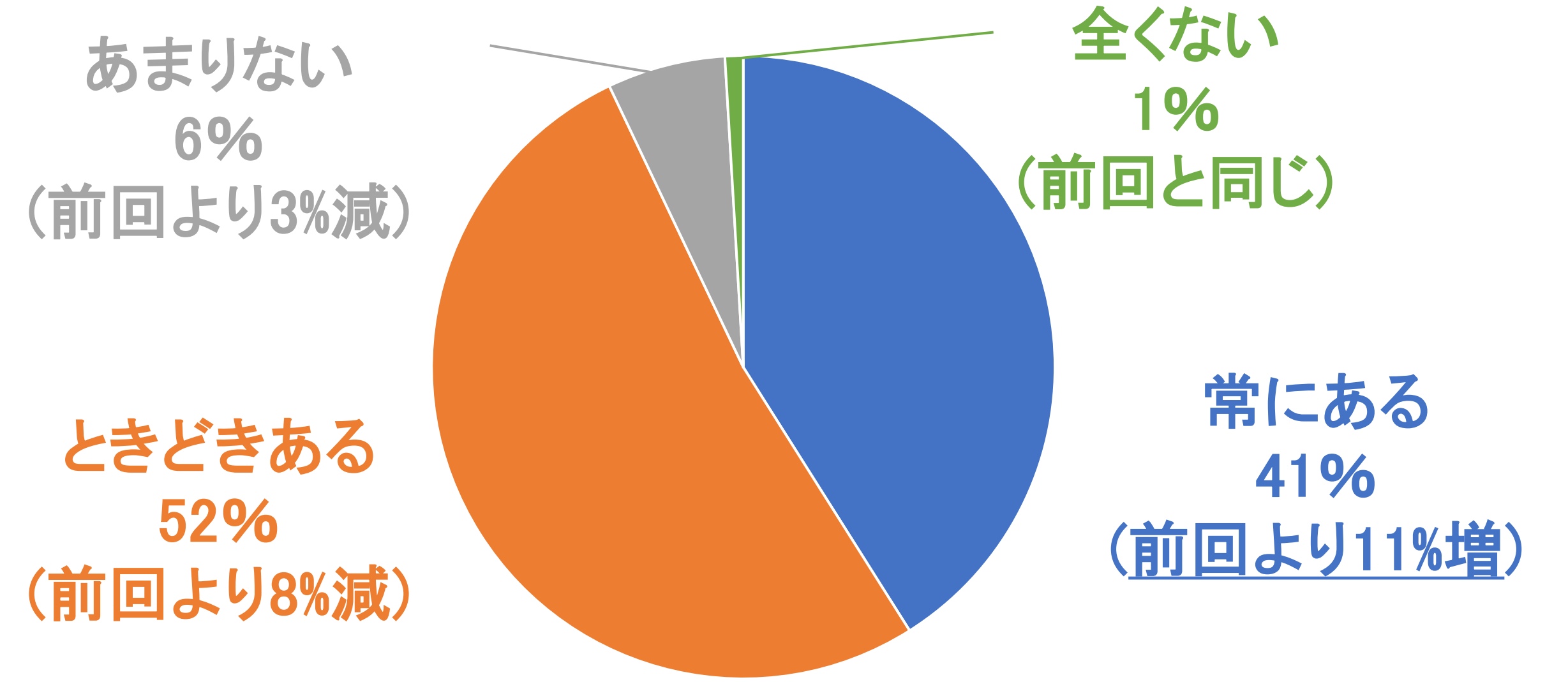
調査方法

- 実施期間：2023年8月1日～8月31日
- 回答方法：紙面(院内) または Googleフォーム
- 周知方法：院内掲示、ホームページ、SNSで周知
- 回答者：213名

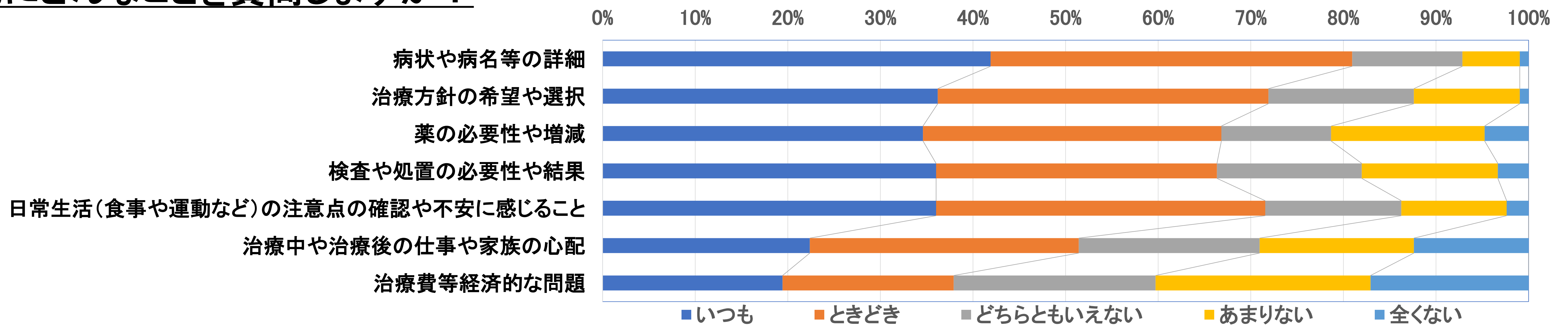
回答者の年代



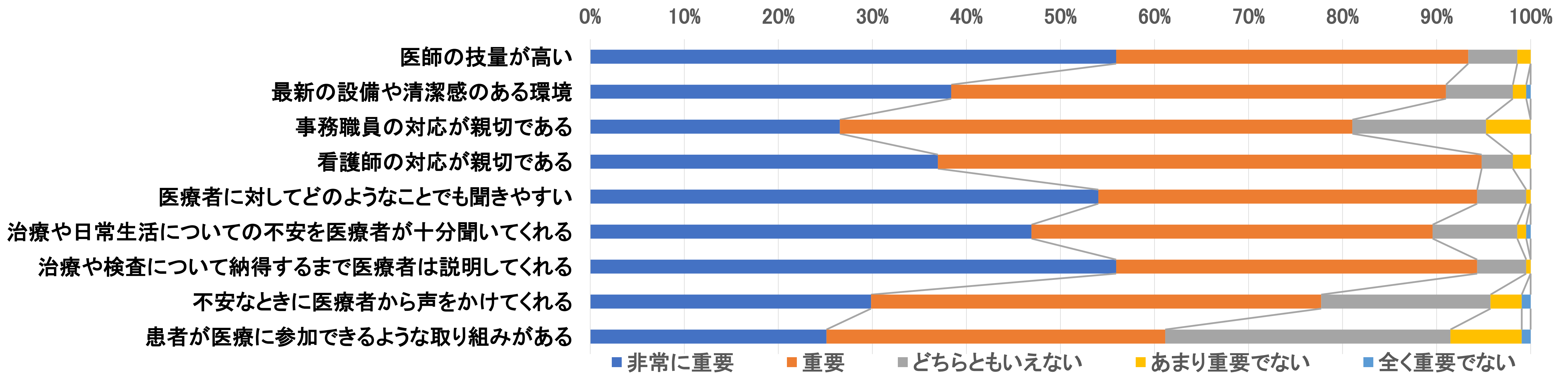
Q.受診の時に医療者に質問したり、自分の考えや気持ちを伝えたりすることはありますか？ (前回は2021年度に調査)



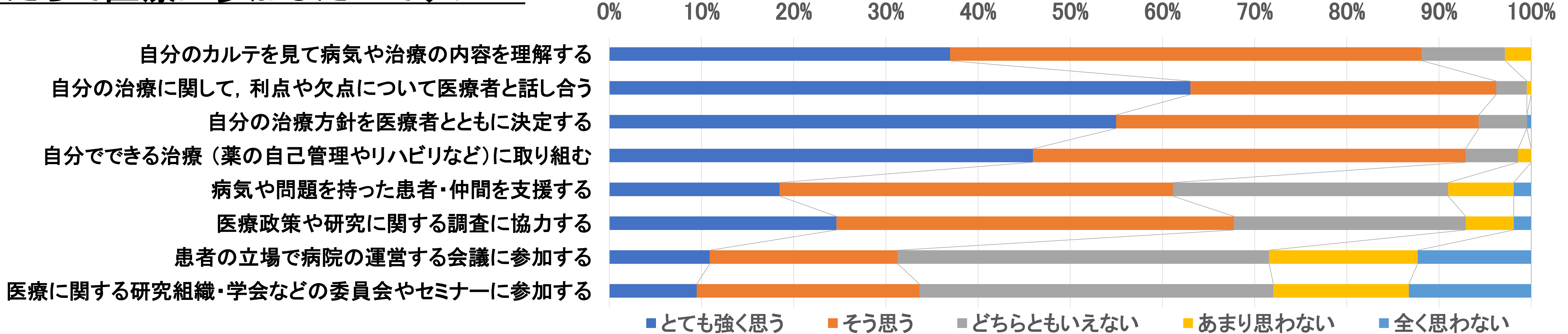
Q.具体的にどんなことを質問しますか？



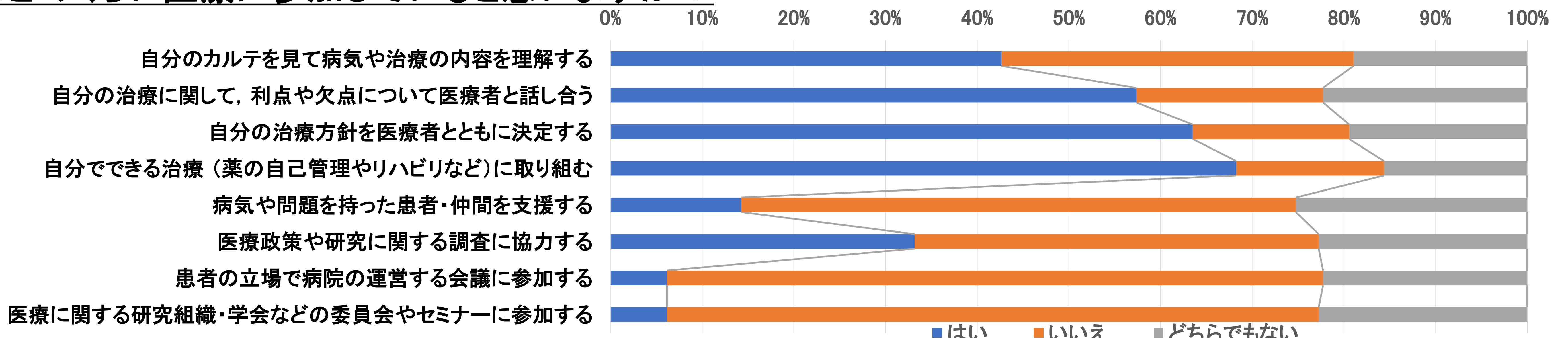
Q.受診の時、どんなことが重要と感じていますか？



Q.どんなかたちで医療に参加したいですか？

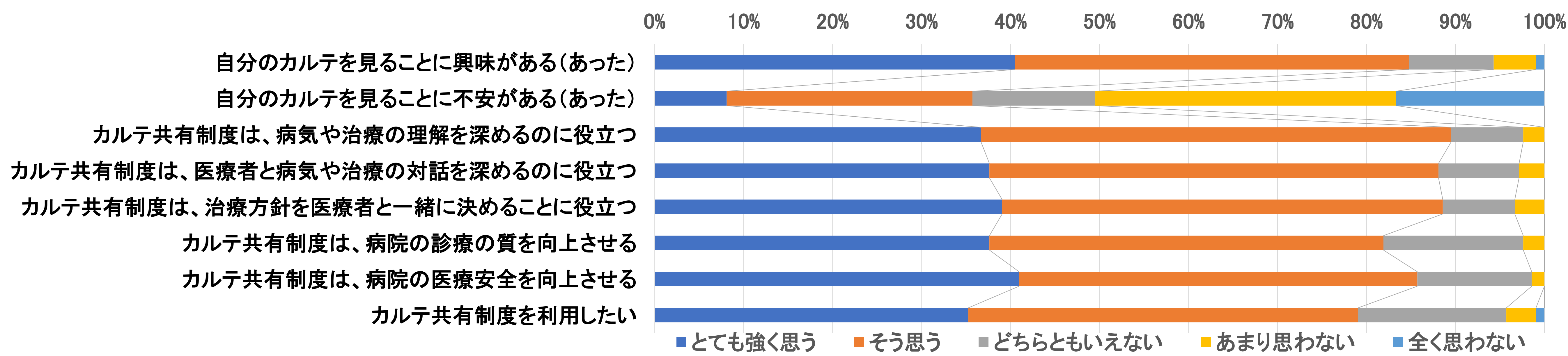


Q.あなたはどのくらい医療に参加していると思いますか？

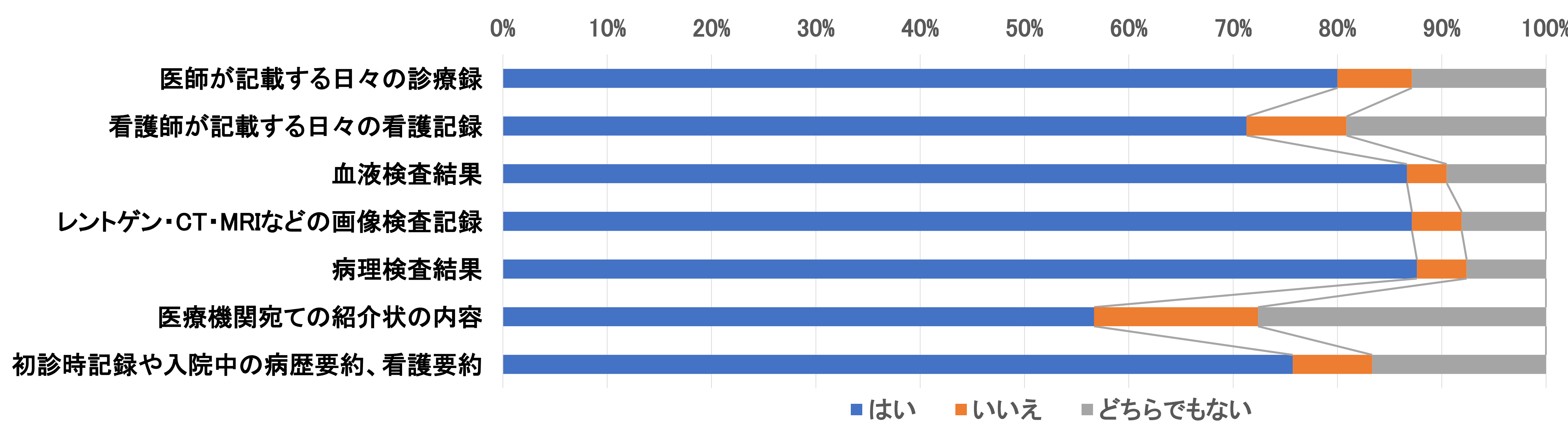


患者参加の一つに、自分の診療記録(カルテ)を見て、ご自身の病状や治療の経過を確認しながら治療をすすめる「**カルテ共有制度**」があげられます。当院では、原則18歳以上の患者さん本人であれば、入院期間中に、自分のカルテに記載された内容や、血液検査や、CT・レントゲン検査などの結果を見ることができます。その後、疑問点などを担当医に聞いたりすることで、自分の病気や治療に対する理解が深まり、自分の治療方針を医療者と一緒に、話し合いながら、決めていくことに繋がると考えています。

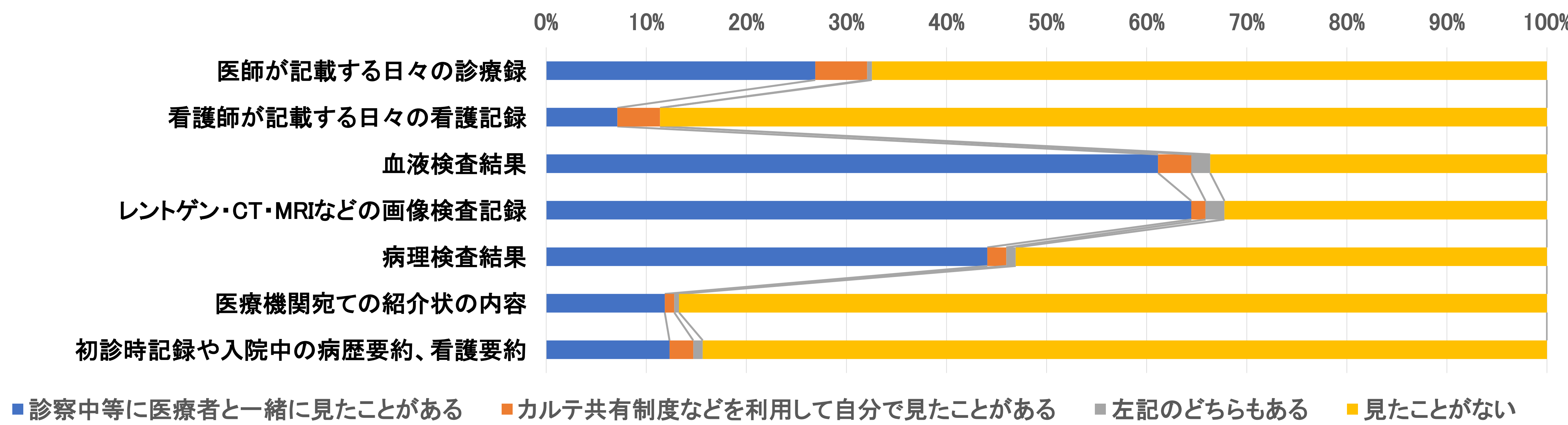
Q.カルテ共有制度について、どのように思っていますか？



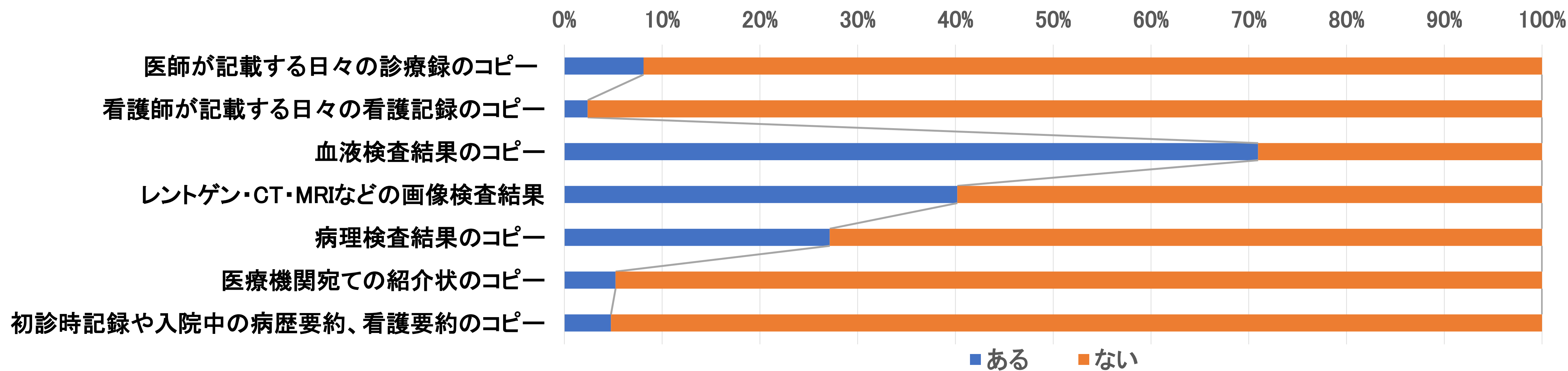
Q.カルテ共有制度を利用する場合、どのような項目を見たいですか？



Q.実際に自分のカルテを見たことがありますか？



Q.実際に自分の診療録等のコピーを、当院から依頼しなくても渡されたことがありますか？



まとめ

- **患者参加型医療**に関する調査では、患者として質問したり、考えや気持ちを伝えているという回答が全体の93%でした。受診時は看護師の親切な対応や医療者へ質問のし易さが重要だと感じているという結果でした。また、ご自身が薬の自己管理や治療方針の決定など医療に参加しているという回答が約60%である中、「自分のカルテを見て病気や治療を理解している」という回答は約40%でした。
- **カルテ共有制度**に関する調査では、この制度に対する前向きな回答が多く、自分のカルテを見たいという回答も同様に多い結果でした。検査結果などはカルテで見たことがあるとの回答が多い一方で、診療録や看護記録などは見たことがないという回答は6割以上あり、閲覧項目によってカルテを見るなど経験の有無に違いがあるという結果でした。
- 今回の調査によりご自身に関連した医療に参加していると思っている患者さんは多い一方で、カルテに触れる機会は少ないことが分かりました。患者参加型医療の推進において、医療者は、分かりやすく説明する、患者さんが質問しやすく、希望を伝えやすいような雰囲気を作心掛ける、患者さんにご自身のカルテを見ていただく機会を持つ、などを心がける必要があると考えます。